

【表紙】

【提出書類】 有価証券届出書の訂正届出書

【提出先】 関東財務局長殿

【提出日】 平成27年4月17日

【発行者名】 しんきんアセットマネジメント投信株式会社

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大澤 宣之

【本店の所在の場所】 東京都中央区京橋三丁目8番1号

【事務連絡者氏名】 野呂 俊夫

【電話番号】 03 - 5524 - 8161

【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】 しんきんトピックスオープン

【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券の金額】 継続申込期間
(平成26年10月4日から平成27年10月2日まで)
3,000億円を上限とします。

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

本日、半期報告書を提出いたしましたので、平成26年10月3日付をもって提出した有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）の関係情報を新たな情報により訂正するため、本訂正届出書を提出するものです。

2【訂正の内容】

原届出書の該当情報を、以下の内容に訂正します。

下線部分_____は訂正部分を示します。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

（1）【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの特色

訂正部分を抜粋して表示しています。

<訂正前>

◎TOPIXの推移

TOPIXは日本経済の歩みとともに、日本株式市場の動きを的確に反映して推移してきました。



出所：内閣府ホームページ他より、しんきんアセットマネジメント投信（株）作成

※グラフ・データは終値ベースです。

※景気後退期の直近の山・谷は内閣府暫定日付

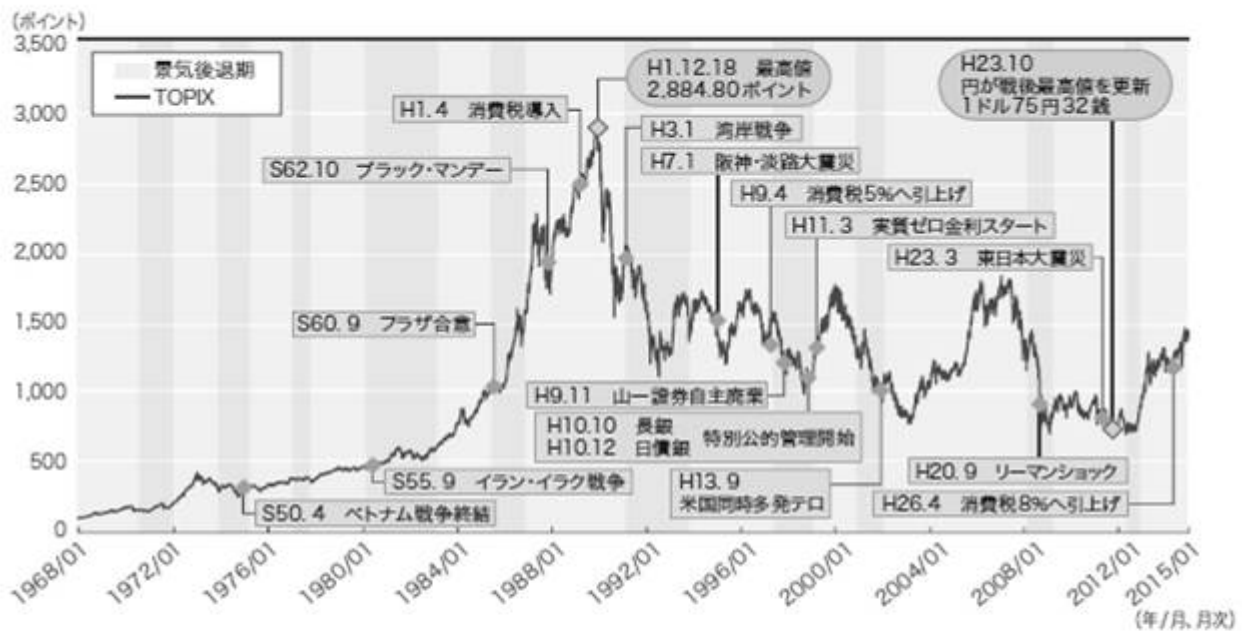
●投資戦略

- 東京証券取引所第一部上場の銘柄に投資します。
- 株価指数先物取引等の派生商品の活用により、取引コストや価格変動リスクを低減させるとともに、株式(現物)と株価指数先物取引比率を合計した実質組入比率を高位に保ち、東証株価指数 (TOPIX) との連動性の向上を図ります。

<訂正後>

◎TOPIXの推移

TOPIXは日本経済の歩みとともに、日本株式市場の動きを的確に反映して推移してきました。



出所：内閣府ホームページ他より、しんきんアセットマネジメント投信（株）作成

※グラフ・データは終値ベースです。

※景気後退期の直近の山・谷は内閣府暫定日付

●投資戦略

- 東京証券取引所第一部上場の銘柄に投資します。
- 株価指数先物取引等の派生商品の活用により、取引コストや価格変動リスクを低減させるとともに、株式（現物）と株価指数先物取引を合計した実質組入比率を高位に保ち、東証株価指数（TOPIX）との連動性の向上を図ります。

2【投資方針】

(3)【運用体制】

<訂正前>

(前略)

ファンドの運用体制等は2014年7月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

<訂正後>

(前略)

ファンドの運用体制等は2015年1月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

(5)【投資制限】

訂正後の内容を記載しています。

しんきんトピックスオープン投資信託約款（以下「約款」といいます。）および法令では、ファンドの運用に関して一定の制限および限度を定めています。かかる制限、限度は以下のとおりです。

投資する株式等の範囲

委託会社が投資することを指図する株式は、わが国の金融商品取引所に上場されている株式の発行会社の発行する株式とします。ただし、株主割当により取得する株式については、この限りではありません。

株式への投資制限

株式への投資割合には制限を設けません。

新株引受権証券および新株予約権証券への投資制限

新株引受権証券および新株予約権証券への投資は、取得時において投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。

投資信託証券への投資制限

投資信託証券への投資は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。

同一銘柄の新株引受権証券等への投資制限

同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資は、投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。

同一銘柄の転換社債等への投資制限

同一銘柄の転換社債、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）への投資は、投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。

外貨建資産への投資制限

外貨建資産への投資は行いません。

先物取引等の運用指図

- 1) 委託会社は、わが国の金融商品取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引を行うことの指図をすることができます。また、わが国において行われる有価証券店頭オプション取引、有価証券店頭指数等オプション取引を行うことの指図をす

ることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めて取扱うものとします（以下同じ。）。

- 2) 委託会社は、わが国の取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引を行うことの指図をすることができます。

スワップ取引の範囲

- 1) 委託会社は、投資信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行うことの指図をすることができます。
- 2) スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として投資信託約款第3条に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについては、この限りではありません。
- 3) スワップ取引の指図にあたっては、当該投資信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の合計額が、投資信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、投資信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が、投資信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社はすみやかにその超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとします。
- 4) スワップ取引の評価は、市場実勢金利等をもとに算出した価額で行うものとします。
- 5) 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり、担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

金利先渡取引の範囲

- 1) 委託会社は、投資信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、金利先渡取引を行うことの指図をすることができます。
- 2) 金利先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として投資信託約款第3条に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- 3) 金利先渡取引の指図にあたっては、当該投資信託財産にかかる金利先渡取引の想定元本の合計額が、ヘッジ対象金利商品の時価総額を超えないものとします。なお、投資信託財産の一部解約等の事由により、上記時価総額が減少して、金利先渡取引の想定元本の合計額がヘッジ対象金利商品の時価総額を超えることとなった場合には、委託会社は、すみやかにその超える額に相当する金利先渡取引の一部の解約を指図するものとします。
- 4) 金利先渡取引の評価は、市場実勢金利等をもとに算出した価額で行うものとします。
- 5) 委託会社は、金利先渡取引を行うにあたり、担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

デリバティブ取引等に係る投資制限

デリバティブ取引等（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号に定めるデリバティブ取引をいいます。）について、一般社団法人投資信託協会規則の定めるところに従い、合理的な方法により算出した額が投資信託財産の純資産総額を超えないものとします。

信用取引の指図範囲

- 1) 委託会社は、投資信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引き渡しまたは買い戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。

- 2) 1)の信用取引の指図は、次の各号に掲げる有価証券の発行会社の発行する株券について行うことができるものとし、かつ次の各号に掲げる株券数の合計数を超えないものとします。
- a. 投資信託財産に属する株券および新株引受権証書の権利行使により取得する株券
 - b. 株式分割により取得する株券
 - c. 有償増資により取得する株券
 - d. 売り出しにより取得する株券
 - e. 投資信託財産に属する転換社債の転換請求および新株予約権の行使により取得可能な株券
 - f. 投資信託財産に属する新株引受権証券および新株引受権付社債券の新株引受権行使、または投資信託財産に属する新株予約権証券および新株予約権付社債券の新株予約権(前号に定めるものを除きます。)の行使により取得可能な株券

有価証券の貸付けの指図および範囲

- 1) 委託会社は、投資信託財産の効率的な運用に資するため、投資信託財産に属する株式および公社債を、次の各号の範囲内で貸付けることの指図をすることができます。
- a. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、投資信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。
 - b. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、投資信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
- 2) 前各項目に定める限度額を超えることとなった場合には、委託会社はすみやかにその超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
- 3) 委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

資金の借入れ

- 1) 委託会社は、投資信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、投資信託財産において一部解約代金の支払資金に不足額が生じるときは、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- 2) 前項の資金借入額は、次の各号に掲げる要件を満たす範囲内の額とします。
- a. 一部解約金の支払資金の手当てのために行った有価証券等の売却等による、受取りの確定している資金の額の範囲内。
 - b. 一部解約金支払日の前営業日において確定した、当該支払日における当該支払資金の不足額の範囲内。
 - c. 借入指図を行う日における、投資信託財産の純資産総額の10%以内。
- 3) 1)の借入期間は、有価証券等の売却等の代金の入金日までに限るものとします。
- 4) 借入金の利息は投資信託財産中より支弁します。

法令に基づく投資制限

委託会社は、運用の指図を行う投資信託財産について、以下の行為を行わないものとします。

- 1) 同一法人の発行する株式への投資制限

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、投資信託財産として有する当該株式に係る議決権の総数(株主総会において決議をすることができる事項の全部につき議決権を行使することができない株式についての議決権を除き、会社法第879条第3項の規定により議決権を有するものとされる株式についての議決権を含みます。)が、当該株式に係る議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合に

においては、投資信託財産をもって当該株式を取得することを受託会社に指図することが禁じられています。

2) デリバティブ取引に係る投資制限

委託会社は、投資信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該投資信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引(新株予約権証券またはオプションを表示する証券若しくは証書に係る取引及び選択権付債券売買を含みます。)を行い、または継続することを受託会社に指図しないものとします。

3【投資リスク】

(3) リスクの管理体制

<訂正前>

(前略)

投資リスクに対する管理体制等は2014年7月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

<訂正後>

(前略)

投資リスクに対する管理体制等は2015年1月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

参考情報

● 当ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資後)の推移



● 当ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較



出所:株式会社野村総合研究所

※上記の左グラフは各月末における当ファンドの直近1年間の騰落率および基準価額(分配金再投資後)の推移を表示したものです。

※基準価額(分配金再投資後)は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算しています。しんきんアセットマネジメント投信(株)が公表している基準価額とは異なる場合があります。

※上記の右グラフは、当ファンドおよび代表的な資産クラスについて、2010年2月から2015年1月の5年間の年間騰落率の平均・最大・最小を表示したものです。当該グラフは、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものであり、すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

<代表的な資産クラスの指数>

日本株:東証株価指数(TOPIX)(配当込み)、先進国株:MSCI-KOKUSAIインデックス(配当込み、円ベース)、新興国株:MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)、日本国債:NOMURA-BPI国債、先進国債:シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)、新興国債:JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

(注)海外の指数は、為替ヘッジを行わない投資を想定して、円ベースとしています。各指数の詳細は、下記「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

・東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

・MSCI-KOKUSAI インデックス(配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAI インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

・NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

・シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。

なお、シティ世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

・JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

※騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しておりますが、同社はその内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害および一切の問題について、何らの責任も負いません。

4【手数料等及び税金】

(3)【信託報酬等】

訂正後の内容を記載しています。

運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額に対して、年率0.864% (税抜0.80%)	
	1万口あたりの信託報酬：保有期間中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (保有日数 / 365)	
※上記の計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。 ※運用管理費用は、計算期間を通じて毎日計算され、毎計算期間の最初の6か月終了日および毎計算期間末、または信託終了のときに投資信託財産から支払われます。		
支払先	配分 (税抜) および役務の内容	
委託会社	純資産総額に対して、年率0.25%	ファンドの運用、受託会社への運用指図、法定書類の作成等の対価
販売会社	純資産総額に対して、年率0.45%	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理および購入後の情報提供等の対価
受託会社	純資産総額に対して、年率0.10%	運用財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価

「税抜」における「税」とは、消費税等をいいます。

5【運用状況】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 5 運用状況」については、以下の内容に更新、訂正されます。

(1)【投資状況】

平成27年1月30日現在

資産の種類	国・地域	時価合計(円)	投資比率(%)
株式	日本	4,059,517,360	97.48
株式先物	日本	99,015,000	2.38
小計		4,158,532,360	99.86
コール・ローン等およびその他の資産(負債控除後)		6,023,409	0.14
合計(純資産総額)		4,164,555,769	100.00

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価金額の比率です。

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

(国内株式上位30銘柄)

平成27年1月30日現在

順位	国/地域	種類	銘柄名	業種	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	27,200	6,189.62	168,357,800	7,645.00	207,944,000	4.99
2	日本	株式	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	156,700	602.87	94,470,410	632.30	99,081,410	2.38
3	日本	株式	ソフトバンク	情報・通信業	10,300	7,597.16	78,250,850	6,963.00	71,718,900	1.72
4	日本	株式	本田技研工業	輸送用機器	17,800	3,554.19	63,264,662	3,581.00	63,741,800	1.53
5	日本	株式	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	14,700	4,079.74	59,972,232	3,990.50	58,660,350	1.41
6	日本	株式	KDDI	情報・通信業	6,600	6,393.65	42,198,128	8,363.00	55,195,800	1.33
7	日本	株式	日本電信電話	情報・通信業	7,600	6,657.02	50,593,400	7,020.00	53,352,000	1.28
8	日本	株式	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	269,500	199.43	53,747,521	194.00	52,283,000	1.26
9	日本	株式	武田薬品工業	医薬品	7,800	4,701.96	36,675,300	5,903.00	46,043,400	1.11
10	日本	株式	アステラス製薬	医薬品	23,500	1,418.25	33,328,890	1,829.50	42,993,250	1.03
11	日本	株式	キヤノン	電気機器	11,400	3,423.66	39,029,800	3,740.50	42,641,700	1.02
12	日本	株式	日立製作所	電気機器	47,000	769.19	36,152,000	897.30	42,173,100	1.01
13	日本	株式	ファナック	電気機器	2,100	17,415.85	36,573,300	19,890.00	41,769,000	1.00
14	日本	株式	日本たばこ産業	食料品	12,300	3,635.53	44,717,044	3,232.50	39,759,750	0.95
15	日本	株式	東海旅客鉄道	陸運業	1,800	15,705.16	28,269,300	20,320.00	36,576,000	0.88
16	日本	株式	三菱地所	不動産業	15,000	2,549.73	38,246,000	2,383.50	35,752,500	0.86
17	日本	株式	セブン&アイ・ホールディングス	小売業	8,200	4,349.59	35,666,648	4,337.50	35,567,500	0.85
18	日本	株式	ソニー	電気機器	12,700	1,818.93	23,100,468	2,774.00	35,229,800	0.85
19	日本	株式	東京海上ホールディングス	保険業	8,000	3,322.76	26,582,115	4,140.00	33,120,000	0.80
20	日本	株式	東日本旅客鉄道	陸運業	3,600	8,576.22	30,874,400	9,130.00	32,868,000	0.79

21	日本	株式	パナソニック	電気機器	24,100	1,219.13	29,381,140	1,352.00	32,583,200	0.78
22	日本	株式	N T T ドコモ	情報・通信業	16,000	1,785.83	28,573,400	2,005.00	32,080,000	0.77
23	日本	株式	三菱商事	卸売業	14,900	2,143.67	31,940,812	2,068.00	30,813,200	0.74
24	日本	株式	ブリヂストン	ゴム製品	6,500	3,838.20	24,948,300	4,738.00	30,797,000	0.74
25	日本	株式	三井不動産	不動産業	10,000	3,392.39	33,923,970	3,000.50	30,005,000	0.72
26	日本	株式	花王	化学	5,700	4,259.15	24,277,200	5,181.00	29,531,700	0.71
27	日本	株式	信越化学工業	化学	3,700	6,381.74	23,612,458	7,848.00	29,037,600	0.70
28	日本	株式	富士重工業	輸送用機器	6,700	3,032.04	20,314,700	4,296.50	28,786,550	0.69
29	日本	株式	日産自動車	輸送用機器	27,800	990.20	27,527,700	1,016.50	28,258,700	0.68
30	日本	株式	三菱電機	電気機器	20,000	1,315.05	26,301,000	1,376.50	27,530,000	0.66

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

投資有価証券の種類別投資比率

平成27年1月30日現在

投資有価証券の種類	投資比率(%)
株 式	97.48
合 計	97.48

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の評価金額の比率です。

業種別投資比率

平成27年1月30日現在

業 種	投資比率(%)
水産・農林業	0.08
鉱業	0.42
建設業	2.48
食料品	4.14
繊維製品	0.74
パルプ・紙	0.22
化学	6.13
医薬品	4.79
石油・石炭製品	0.46
ゴム製品	0.97
ガラス・土石製品	0.91
鉄鋼	1.50
非鉄金属	0.90
金属製品	0.64
機械	4.98
電気機器	12.44
輸送用機器	11.64
精密機器	1.44
その他製品	1.29
電気・ガス業	2.13
陸運業	4.17
海運業	0.34
空運業	0.67
倉庫・運輸関連業	0.21

情報・通信業	6.78
卸売業	3.81
小売業	4.15
銀行業	8.45
証券、商品先物取引業	1.29
保険業	2.35
その他金融業	1.10
不動産業	2.84
サービス業	2.95
合計(対純資産総額比)	97.48

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該業種の評価金額の比率です。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

平成27年1月30日現在

種類	地域	資産名	買建/ 売建	数量 (枚)	簿価 (円)	時価 (円)	投資比率 (%)
株価指数先物取引	日本	東証株価 指数先物	買建	7	95,368,000	99,015,000	2.38

（注1）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

（注2）株価指数先物取引の時価については、原則として当該日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段または最終相場で評価しています。このような時価が発表されていない場合には、当該日に最も近い最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しています。

（3）【運用実績】

【純資産の推移】

平成27年1月末日、同日前1年以内における各月末および各計算期末の純資産総額ならびに基準価額の推移は以下のとおりです。

計算期間	純資産総額(円)		基準価額(円)	
	分配落	分配付	分配落	分配付
第1計算期間末 (平成13年7月18日)	5,021,478,424	5,021,478,424	7,900	7,900
第2計算期間末 (平成14年7月18日)	4,612,684,545	4,612,684,545	6,674	6,674
第3計算期間末 (平成15年7月18日)	4,196,324,276	4,196,324,276	6,173	6,173
第4計算期間末 (平成16年7月18日)	4,802,532,801	4,840,997,421	7,491	7,551
第5計算期間末 (平成17年7月19日)	10,696,378,820	10,737,342,783	7,834	7,864
第6計算期間末 (平成18年7月18日)	5,673,347,934	5,714,164,538	9,730	9,800
第7計算期間末 (平成19年7月18日)	5,602,099,416	5,645,611,582	11,587	11,677
第8計算期間末 (平成20年7月18日)	5,104,910,738	5,104,910,738	8,316	8,316

第9計算期間末 (平成21年7月21日)	6,272,724,016	6,272,724,016	6,022	6,022
第10計算期間末 (平成22年7月20日)	4,789,121,614	4,789,121,614	5,619	5,619
第11計算期間末 (平成23年7月19日)	5,008,191,166	5,077,797,971	5,756	5,836
第12計算期間末 (平成24年7月18日)	4,663,217,848	4,663,217,848	5,063	5,063
第13計算期間末 (平成25年7月18日)	4,138,064,359	4,192,502,870	8,361	8,471
第14計算期間末 (平成26年7月18日)	3,987,504,288	4,043,033,748	8,617	8,737
平成26年1月末日	3,552,140,429		8,382	
平成26年2月末日	3,571,300,770		8,320	
平成26年3月末日	3,561,133,709		8,333	
平成26年4月末日	3,460,203,052		8,043	
平成26年5月末日	4,000,106,773		8,309	
平成26年6月末日	4,094,830,505		8,737	
平成26年7月末日	4,112,779,137		8,794	
平成26年8月末日	4,013,871,360		8,710	
平成26年9月末日	3,522,304,921		9,098	
平成26年10月末日	3,630,013,804		9,141	
平成26年11月末日	3,646,602,622		9,662	
平成26年12月末日	3,647,686,948		9,648	
平成27年1月末日	4,164,555,769		9,691	

(注) 基準価額は受益権1口当たりの純資産額を1万口単位で表示したものです。

【分配の推移】

計算期間	1万口当たりの収益分配金
第1計算期間末 (平成13年7月18日)	0円
第2計算期間末 (平成14年7月18日)	0円
第3計算期間末 (平成15年7月18日)	0円
第4計算期間末 (平成16年7月20日)	60円
第5計算期間末 (平成17年7月19日)	30円
第6計算期間末 (平成18年7月18日)	70円
第7計算期間末 (平成19年7月18日)	90円
第8計算期間末 (平成20年7月18日)	0円
第9計算期間末 (平成21年7月21日)	0円

第10計算期間末 (平成22年7月20日)	0円
第11計算期間末 (平成23年7月19日)	80円
第12計算期間末 (平成24年7月18日)	0円
第13計算期間末 (平成25年7月18日)	110円
第14計算期間末 (平成26年7月18日)	120円

【収益率の推移】

計算期間	収益率
第1計算期間末 (平成13年7月18日)	21.00%
第2計算期間末 (平成14年7月18日)	15.51%
第3計算期間末 (平成15年7月18日)	7.51%
第4計算期間末 (平成16年7月20日)	22.32%
第5計算期間末 (平成17年7月19日)	4.98%
第6計算期間末 (平成18年7月18日)	25.10%
第7計算期間末 (平成19年7月18日)	20.01%
第8計算期間末 (平成20年7月18日)	28.23%
第9計算期間末 (平成21年7月21日)	27.59%
第10計算期間末 (平成22年7月20日)	6.69%
第11計算期間末 (平成23年7月19日)	3.86%
第12計算期間末 (平成24年7月18日)	12.04%
第13計算期間末 (平成25年7月18日)	67.31%
第14計算期間末 (平成26年7月18日)	4.50%
平成26年7月19日から 平成27年1月18日まで	8.41%

(注) 収益率とは、計算期間末の基準価額（分配付きの額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ちの額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た額に100を乗じて得た数です。なお、第1計算期間については、直前の計算期間の基準価額を10,000円として計算しています。

(4) 【設定及び解約の実績】

計算期間		設定数量(口)	解約数量(口)
第1期	平成12年7月19日から平成13年7月18日	8,993,680,314	2,637,260,285
第2期	平成13年7月19日から平成14年7月18日	1,379,082,268	824,249,417
第3期	平成14年7月19日から平成15年7月18日	3,761,795,209	3,875,197,862
第4期	平成15年7月19日から平成16年7月20日	1,133,564,466	1,520,644,578
第5期	平成16年7月21日から平成17年7月19日	8,719,041,546	1,475,157,122
第6期	平成17年7月20日から平成18年7月18日	4,925,371,569	12,749,082,663
第7期	平成18年7月19日から平成19年7月18日	2,627,585,163	3,623,843,411
第8期	平成19年7月19日から平成20年7月18日	2,821,446,031	1,517,510,938
第9期	平成20年7月19日から平成21年7月21日	5,126,053,339	847,833,033
第10期	平成21年7月22日から平成22年7月20日	1,045,834,900	2,939,240,777
第11期	平成22年7月21日から平成23年7月19日	1,164,598,918	987,182,949
第12期	平成23年7月20日から平成24年7月18日	2,912,758,463	2,402,765,118
第13期	平成24年7月19日から平成25年7月18日	1,431,778,317	5,693,666,777
第14期	平成25年7月19日から平成26年7月18日	1,456,536,543	1,778,037,082
第15期(中間)	平成26年7月19日から平成27年1月18日	963,113,301	1,275,579,136

(注) 設定数量には、当初募集期間中の設定口数を含みます。

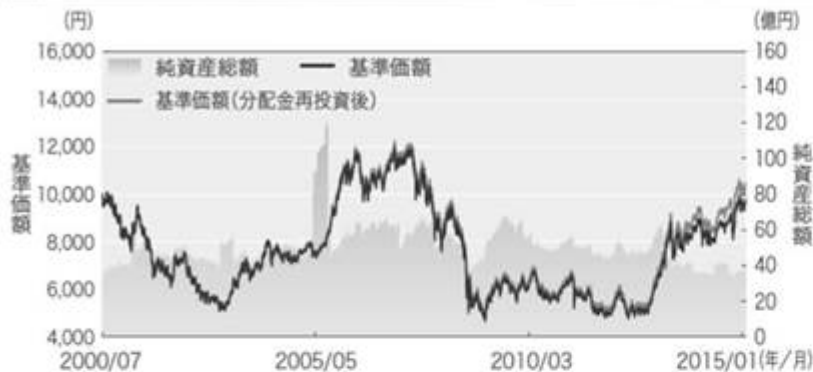
(参考) 運用実績

データは2015年1月30日現在です。

※下記のグラフ・データは過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

※端数処理の都合上、各欄の合計が合計欄と一致しない場合や、比率の合計が100にならない場合等があります。

基準価額・純資産の推移



基準価額・純資産総額

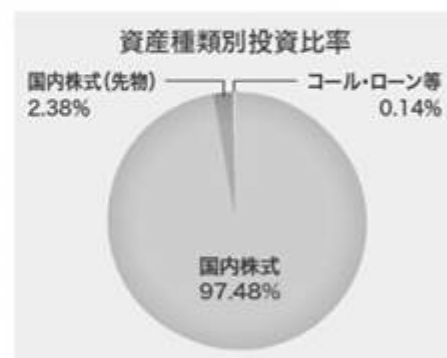
基準価額	9,691円
純資産総額	4,165百万円
分配の推移(税引前)	
決算期	分配金
2014年7月18日	120円
2013年7月18日	110円
2012年7月18日	0円
2011年7月19日	80円
2010年7月20日	0円
設定来累計	560円

※基準価額および分配金は1万口当たりです。

※基準価額(分配金再投資後)は決算日の翌営業日に分配金を非課税で再投資したものと計算しております。

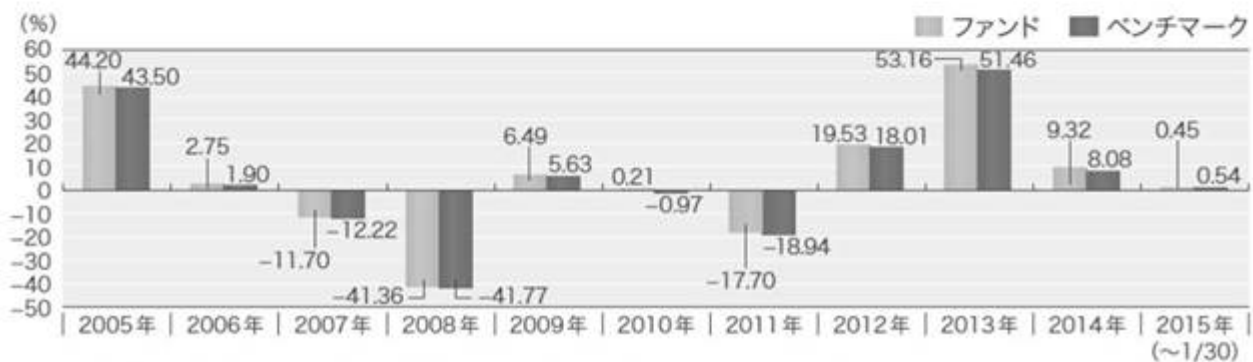
主要な資産の状況

組入上位10銘柄			組入上位10業種	
銘柄名	業種	投資比率	業種	投資比率
1 トヨタ自動車	輸送用機器	4.99%	1 電気機器	12.44%
2 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.38%	2 輸送用機器	11.64%
3 ソフトバンク	情報・通信業	1.72%	3 銀行業	8.45%
4 本田技研工業	輸送用機器	1.53%	4 情報・通信業	6.78%
5 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.41%	5 化学	6.13%
6 KDDI	情報・通信業	1.33%	6 機械	4.98%
7 日本電信電話	情報・通信業	1.28%	7 医薬品	4.79%
8 みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.26%	8 陸運業	4.17%
9 武田薬品工業	医薬品	1.11%	9 小売業	4.15%
10 アステラス製薬	医薬品	1.03%	10 食料品	4.14%



※投資比率は、当ファンドの純資産総額に対する当該銘柄、業種、資産種類の時価の比率です。

年間収益率の推移 (期間: 2005年~2015年)



※上記の収益率は決算日の翌営業日に分配金を非課税で再投資したものと計算しております。

※最新の運用実績はしんきんアセットマネジメント投信(株)のホームページで運用レポートとしてお知らせしております。

第2【管理及び運営】

3【資産管理等の概要】

(5)【その他】

運用報告書

<訂正前>

委託会社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」の規定に基づき毎計算期間の末日（原則7月18日）および償還日を基準に運用報告書（交付運用報告書を作成している場合は交付運用報告書）を作成し、投資信託財産にかかる知られたる受益者に、販売会社を通じて交付します。

<訂正後>

委託会社は、投資信託及び投資法人に関する法律の規定に基づき毎計算期間の末日（原則7月18日）および償還日を基準に交付運用報告書を作成し、投資信託財産にかかる知られたる受益者に、販売会社を通じて交付します。

第3【ファンドの経理状況】

原届出書の内容に、以下の情報が追加されます。

1. 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに同規則第38条の3及び第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。
なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当中間計算期間（平成26年7月19日から平成27年1月18日まで）の中間財務諸表について、あらた監査法人による中間監査を受けております。

中間財務諸表

しんきんトピックスオープン

(1) 【中間貸借対照表】

区分	注記 番号	前計算期間末 (平成26年7月18日現在)	注記 番号	当中間計算期間末 (平成27年1月18日現在)
		金額(円)		金額(円)
資産の部				
流動資産				
コール・ローン		78,120,622		127,797,433
株式		3,966,849,600		3,912,613,131
派生商品評価勘定		1,251,552		-
未収入金		12,133,082		-
未収配当金		3,188,290		4,089,172
未収利息		42		105
差入委託証拠金		1,800,000		4,560,000
流動資産合計		4,063,343,188		4,049,059,841
資産合計		4,063,343,188		4,049,059,841
負債の部				
流動負債				
派生商品評価勘定		286,613		418,000
前受金		1,674,000		1,502,000
未払収益分配金		55,529,460		
未払解約金		2,516,027		
未払受託者報酬		1,965,605		2,021,667
未払委託者報酬		13,759,195		14,151,612
その他未払費用		108,000		108,000
流動負債合計		75,838,900		18,201,279
負債合計		75,838,900		18,201,279
純資産の部				
元本等				
元本	1, 3	4,627,455,034	1, 3	4,314,989,199
剰余金				
中間剰余金又は中間欠損金 ()	2	639,950,746	2	284,130,637
(分配準備積立金)		619,896,302		459,034,009
元本等合計		3,987,504,288		4,030,858,562
純資産合計		3,987,504,288		4,030,858,562
負債純資産合計		4,063,343,188		4,049,059,841

(2) 【中間損益及び剰余金計算書】

区分	注記 番号	前中間計算期間 (自 平成25年 7月19日 至 平成26年 1月18日)	注記 番号	当中間計算期間 (自 平成26年 7月19日 至 平成27年 1月18日)
		金額(円)		金額(円)
営業収益				
受取配当金		33,037,810		31,117,929
受取利息		14,413		7,009
有価証券売買等損益		208,926,509		283,585,487
派生商品取引等損益		9,250,137		13,309,258
その他収益		50,662		25,313
営業収益合計		251,279,531		328,044,996
営業費用				
受託者報酬		2,055,717		2,021,667
委託者報酬		14,389,926		14,151,612
その他費用		164,394		108,000
営業費用合計		16,610,037		16,281,279
営業利益又は営業損失()		234,669,494		311,763,717
経常利益又は経常損失()		234,669,494		311,763,717
中間純利益又は中間純損失()		234,669,494		311,763,717
一部解約に伴う中間純利益金額の 分配額又は一部解約に伴う中間純 損失金額の分配額()		8,688,890		49,616,219
期首剰余金又は期首欠損金()		810,891,214		639,950,746
剰余金増加額又は欠損金減少額		217,441,534		178,675,444
中間一部解約に伴う剰余金増加額 又は欠損金減少額		217,441,534		178,675,444
剰余金減少額又は欠損金増加額		71,492,768		85,002,833
中間追加信託に伴う剰余金減少額 又は欠損金増加額		71,492,768		85,002,833
分配金				
中間剰余金又は中間欠損金()		438,961,844		284,130,637

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、金融商品取引所における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）又は金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	先物取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、計算日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場によっております。

(中間貸借対照表に関する注記)

区分	前計算期間末 (平成26年7月18日現在)	当中間計算期間末 (平成27年1月18日現在)
1 信託財産に係る期首元本額、期中追加設定元本額及び期中一部解約元本額	期首元本額 4,948,955,573円 期中追加設定元本額 1,456,536,543円 期中一部解約元本額 1,778,037,082円	期首元本額 4,627,455,034円 期中追加設定元本額 963,113,301円 期中一部解約元本額 1,275,579,136円
2 元本の欠損	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は639,950,746円であります。	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は284,130,637円であります。
3 中間計算期間末日における受益権の総数	4,627,455,034口	4,314,989,199口

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

前中間計算期間 (自平成25年7月19日 至平成26年1月18日)	当中間計算期間 (自平成26年7月19日 至平成27年1月18日)
該当事項はありません。	同左

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

区分	前計算期間末 (平成26年7月18日現在)	当中間計算期間末 (平成27年1月18日現在)
1. 中間貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているため、その差額はありません。	同左

2. 時価の算定方法	<p>(1)有価証券 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。</p> <p>(2)デリバティブ取引 （デリバティブ取引等関係に関する注記）に記載しております。</p> <p>(3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p>	<p>(1)有価証券 同左</p> <p>(2)デリバティブ取引 同左</p> <p>(3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>また、デリバティブ取引に関する契約額等はあくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。</p>	同左

(デリバティブ取引等関係に関する注記)

(株式関連)

(単位：円)

区分	種類	前計算期間末 (平成26年7月18日現在)			
		契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引	株価指数先物取引 買建	74,736,000	-	75,720,000	984,000
合計		74,736,000	-	75,720,000	984,000

(単位：円)

区分	種類	当中間計算期間末 (平成27年1月18日現在)			
		契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引	株価指数先物取引 買建	109,138,000	-	108,720,000	418,000
合計		109,138,000	-	108,720,000	418,000

(注)時価の算定方法

1. 計算日に知りうる直近の日の、主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しています。
2. 先物取引の残高表示は、契約額ベースです。
3. 契約額等には手数料相当額を含んでおりません。

(1口当たり情報)

前計算期間末 (平成26年7月18日現在)		当中間計算期間末 (平成27年1月18日現在)	
1口当たり純資産額	0.8617円	1口当たり純資産額	0.9342円
(1万口当たり純資産額	8,617円)	(1万口当たり純資産額	9,342円)

2【ファンドの現況】

訂正後の内容を記載しております。

【純資産額計算書】

	平成27年1月30日現在
資産総額	4,167,152,391 円
負債総額	2,596,622 円
純資産総額()	4,164,555,769 円
発行済数量	4,297,503,308 口
1口当たり純資産額(/)	0.9691 円

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

訂正後の内容を記載しています。

(1) 資本の額

200百万円(本書提出日現在)

発行可能株式総数 16,000株

発行済株式総数 4,000株

最近5年間における主な資本の額の増減はありません。

(2) 当社の機構

会社の意思決定機構

業務執行上重要な事項は、取締役会の決議をもって決定します。取締役は、株主総会において選任され、その任期は就任後1年以内の最終の決算期に関する定時株主総会の終結の時までです。ただし、補欠または増員で選任された取締役の任期は、現任取締役の任期の満了の時までとします。

取締役会は、代表取締役を選任し、代表取締役は、会社を代表し、取締役会の決議に従い業務を執行します。また、取締役会は、その決議をもって、取締役社長1名、専務取締役および常務取締役若干名を置くことができます。

取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、原則として取締役社長が招集します。取締役会の議長は、原則として取締役社長がこれにあたります。

取締役会の決議は、取締役の過半数が出席して、出席取締役の過半数をもって決します。

投資運用の意思決定機構

商品企画体制

・投資政策委員会

当委員会において、事務局である運用本部運用企画部が情報を収集し、投資環境、運用環境、販売環境に適合した商品企画案を提出します。また当委員会は、新規設定する商品に関する基本的な重要事項について協議し、委員長がこれを決定します。

運用体制

・投資政策委員会

当委員会において、経済環境、資産別市場見通し並びに投資環境等を検討し、基本的な運用方針、運用戦略について協議し、委員長がこれを決定します。また、基本的な投資方針等に基づいて、ファンド運用についての具体的なガイドライン、方策を審議、決定するとともに、個別銘柄についての分析を行い、投資対象銘柄を選定します。業務管理部は、各ファンドの運用成績、ポートフォリオの運用内容等について考査し、当委員会に報告を行います。

・リスク管理委員会

当委員会において、事務局である業務管理部は、前1か月間の運用状況のモニタリングを行い、リスクとリターンの計測・分析結果について報告を行います。また、コンプライアンス部は、法令・諸規則や運用に関する諸決定事項の遵守状況等を、トレーディング部は、取引先リスク等の報告を行います。

コンプライアンス管理体制

取締役会の下で法令等遵守に関する問題を一元管理するため、以下のとおりコンプライアンス管理体制を敷いています。

- ・コンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスに関する事項全般について審議します。
- ・コンプライアンスに関する事項を統括する部門として、コンプライアンス担当部門を設置するとともに、コンプライアンス関連部門を設置します。
- ・コンプライアンス統括責任者を社長、コンプライアンス管理責任者をコンプライアンス部長とし、コンプライアンス責任者を各部門長とします。また、各部門におけるコンプライアンスの推進および徹底を実践するため、各部門にコンプライアンス担当者を配置します。
- ・全部門から独立した内部監査部門を設置し、コンプライアンス管理の適切性・有効性を検証・評価します。

上記は2015年1月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である当社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行います。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行います。

当社の運用する証券投資信託は、2015年1月30日現在、以下のとおりです。

（親投資信託を除きます。）

（単位：百万円）

種 類	本 数	純資産総額
追加型株式投資信託	51	605,346
単位型株式投資信託	11	34,437
合 計	62	639,784

（注）純資産総額は百万円未満を切捨てしています。

3【委託会社等の経理状況】

平成26年10月3日付をもって提出した有価証券届出書につきまして、委託会社が第25期事業年度の中間決算を迎えたことに伴い、原届出書の「第三部 委託会社等の情報」「第1 委託会社等の概況」「3 委託会社等の経理状況」の該当部分を以下のとおり訂正するとともに、末尾に「2 中間財務諸表」が追加されます。

<訂正前>

1. 委託会社であるしんきんアセットマネジメント投信株式会社（以下「委託会社」という）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という）、ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。

なお、当事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成24年9月21日内閣府令第61号）附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2. 財務諸表の記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
3. 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人の監査を受けております。

<訂正後>

1. 委託会社であるしんきんアセットマネジメント投信株式会社（以下「委託会社」という）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という）、ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。

なお、当事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成24年9月21日内閣府令第61号）附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）ならびに同規則第38条及び第57条の規定により「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

2. 財務諸表及び中間財務諸表の記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
3. 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表ならびに中間会計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）の中間財務諸表について、新日本有限責任監査法人の監査及び中間監査を受けております。

[次へ](#)

2 中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

当中間会計期間末 平成26年9月30日		
科 目	金 額	
	千円	千円
(資産の部)		
流動資産		
現金・預金		1,987,580
前払費用		21,206
未収委託者報酬		305,808
未収運用受託報酬		27,184
未収収益		61
繰延税金資産		31,951
その他の流動資産		6,288
流動資産計		2,380,081
固定資産		
有形固定資産 * 1		91,055
建物	74,481	
器具備品	16,574	
無形固定資産		94,603
ソフトウェア	93,114	
電話加入権	959	
その他	529	
投資その他の資産		1,599
長期前払費用	1,599	
固定資産計		187,259
資産合計		2,567,341

当中間会計期間末 平成26年9月30日		
科 目	金 額	
	千円	千円
(負債の部)		
流動負債		
未払金		243,986
未払手数料	192,487	
その他未払金	51,499	
未払法人税等		101,219
未払消費税等 * 2		35,875
未払事業所税		908
前受収益		98,652
賞与引当金		56,693
その他の流動負債		2,854
流動負債計		540,190
固定負債		
退職給付引当金		83,629
役員退職慰労引当金		10,522
固定負債計		94,151
負債合計		634,341
(純資産の部)		
株主資本		
資本金		200,000
利益剰余金		
利益準備金		2,000
その他利益剰余金		1,730,999
別途積立金	1,410,000	
繰越利益剰余金	320,999	
利益剰余金計		1,732,999
株主資本計		1,932,999
純資産合計		1,932,999
負債・純資産合計		2,567,341

(2) 中間損益計算書

当中間会計期間		
自 平成26年4月1日		
至 平成26年9月30日		
科 目	金 額	
	千円	千円
営業収益		
委託者報酬		1,581,043
運用受託報酬		120,558
営業収益計		1,701,602
営業費用		
支払手数料		791,757
広告宣伝費		2,642
調査費		179,383
調査研究費	134,865	
委託調査費	44,518	
営業雑経費		25,233
印刷費	22,033	
郵便料	162	
電信電話料	1,048	
協会費	1,988	
営業費用計		999,017
一般管理費		
給料		234,622
役員報酬	18,249	
給料・手当	175,526	
賞与	1,677	
法定福利費	34,601	
福利厚生費	2,257	
その他給料	2,310	
賞与引当金繰入		56,693
退職給付費用		28,217
役員退職慰労引当金繰入		5,187
交際費		1,030
旅費交通費		2,818
租税公課		4,687
不動産賃借料		31,620
固定資産減価償却費 * 1		19,728
諸経費		52,086
一般管理費計		436,691
営業利益		265,893
営業外収益		
受取利息	206	
その他営業外収益	120	
営業外収益計		327
営業外費用		
雑損失	28	
営業外費用計		28
経常利益		266,192

当中間会計期間		
自 平成26年4月 1 日		
至 平成26年9月30日		
科 目	金 額	
	千円	千円
税引前中間純利益		266,192
法人税、住民税及び事業税		98,627
法人税等調整額		2,442
中間純利益		165,122

(3) 中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本						純資産合計
	資本金	利益 準備金	利益剰余金		利益 剰余金 合計	株主資本 合計	
			その他利益剰余金				
			別途 積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	200,000	2,000	1,150,000	415,876	1,567,876	1,767,876	1,767,876
当中間期変動額							
新株の発行							
剰余金の配当							
別途積立金の積立			260,000	260,000			
別途積立金の取崩							
中間純利益				165,122	165,122	165,122	165,122
株主資本以外の項目の当 中間期変動額（純額）							
当中間期変動額合計			260,000	94,877	165,122	165,122	165,122
当中間期末残高	200,000	2,000	1,410,000	320,999	1,732,999	1,932,999	1,932,999

重要な会計方針

項 目	当中間会計期間 自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日				
<p>1. 固定資産の減価償却の方法</p> <p>2. 引当金の計上基準</p> <p>3. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項</p>	<p>(1)有形固定資産 定額法を採用しております。主な耐用年数は以下のとおりです。</p> <table border="0"> <tr> <td>建 物</td> <td>3年～50年</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td>3年～20年</td> </tr> </table> <p>(2)無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。</p> <p>(1)賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>(2)退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当中間会計期間末における退職給付債務を計上しております。なお、退職給付引当金の対象従業員が300名未満であるため、簡便法によっており、退職給付債務の金額は当中間会計期間末における自己都合要支給額としております。</p> <p>(3)役員退職慰労引当金 当社常勤役員の退職慰労金の支給に充てるため、「常勤役員退職慰労金規程」に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。</p> <p>消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。</p>	建 物	3年～50年	器具備品	3年～20年
建 物	3年～50年				
器具備品	3年～20年				

注記事項

（中間貸借対照表関係）

項 目	当中間会計期間末 平成26年9月30日	
* 1 有形固定資産の減価償却累計額	建物	43,299千円
	器具備品	39,216千円
* 2 消費税等の取扱い	仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺のうえ、「未払消費税等」として表示しております。	

（中間損益計算書関係）

項 目	当中間会計期間 自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	
* 1 減価償却実施額	有形固定資産	6,285千円
	無形固定資産	13,443千円

（中間株主資本等変動計算書関係）

当中間会計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）

発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末
普通株式(千株)	4			4
計	4			4

（金融商品関係）

当中間会計期間末（平成26年9月30日）

金融商品の時価等に関する事項

平成26年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。

（単位：千円）

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金・預金	1,987,580	1,987,580	
(2)未収委託者報酬	305,808	305,808	
(3)未収運用受託報酬	27,184	27,184	
資産計	2,320,573	2,320,573	
(4)未払手数料	192,487	192,487	
(5)その他未払金	51,499	51,499	
(6)未払法人税等	101,219	101,219	
(7)未払消費税等	35,875	35,875	
(8)未払事業所税	908	908	
負債計	381,989	381,989	

（注）金融商品の時価の算定方法

(1)現金・預金、(2)未収委託者報酬、(3)未収運用受託報酬、(4)未払手数料、(5)その他未払金、(6)未払法人税等、(7)未払消費税等、(8)未払事業所税

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（セグメント情報等）

当中間会計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）

1. セグメント情報

当社は、投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2. 関連情報

（1）製品・サービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、中間損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

（2）地域ごとの情報

売上高

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

（3）主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	営業収益
信金中央金庫	70,790

なお、営業収益の金額は、運用受託報酬について表示しております。

（ 1株当たり情報）

当中間会計期間	
自	平成26年4月1日
至	平成26年9月30日
1株当たり純資産額	483,249円78銭
1株当たり中間純利益	41,280円61銭
潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。	
(注)算定上の基礎	
1株当たり中間純利益	
中間純利益	165,122千円
普通株主に帰属しない金額	千円
普通株式に係る中間純利益	165,122千円
期中平均株式数	4,000株

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成26年6月9日

しんきんアセットマネジメント投信株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	水守 理智 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	岩崎 裕男 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているしんきんアセットマネジメント投信株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第24期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、しんきんアセットマネジメント投信株式会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成26年12月24日

しんきんアセットマネジメント投信株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 茂木 哲也 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岩崎 裕男 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているしんきんアセットマネジメント投信株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第25期事業年度の中間会計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、しんきんアセットマネジメント投信株式会社の平成26年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

平成27年2月25日

しんきんアセットマネジメント投信株式会社
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 鶴田 光夫 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているしんきんトピックスオープンの平成26年7月19日から平成27年1月18日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、しんきんトピックスオープンの平成27年1月18日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成26年7月19日から平成27年1月18日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

しんきんアセットマネジメント投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

[前へ](#)